

本日の講演内容

1. 石川県の口腔がん治療施設の連携
2. 日本人の「がん」について
3. がん対策における「歯科」の役割
4. 金沢大学における口腔がん治療の現状
5. 歯科と関連する口腔がんについて

ヨード生体染色の機序

粘膜上皮の表層および有きよく細胞層内に蓄えられているグリコーゲンがヨウ素に対して化学反応を起こし、正常の「扁平上皮」は茶褐色に変わる。

一方、グリコーゲンを作っている正常な上皮が薄くなるとヨードの染まりが淡くなり、上皮が欠損または異常な細胞に置き換わると完全なヨード不染帯として認識される。

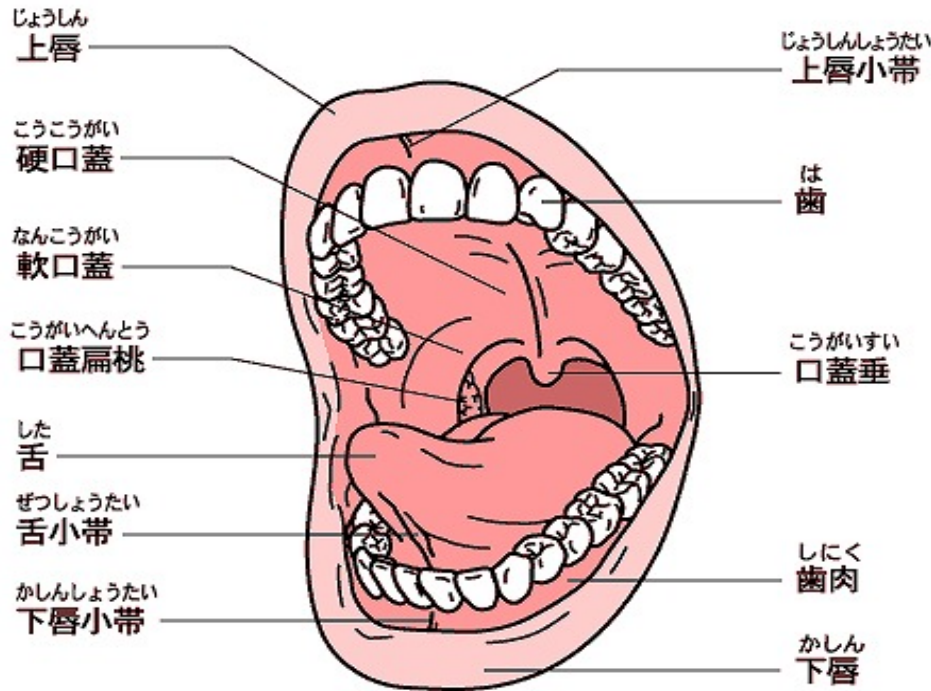
ヨード染色の症例を供覧。

口腔がんとは？？

口腔がんとは、その名の通り口腔内、すなわち口の中にできる悪性腫瘍の総称です。

悪性腫瘍は体内の様々なところに、発症する可能性がありますが、口腔内に発症する確率は全悪性腫瘍の中で2～3%とされています。頻度は、比較的低い悪性腫瘍です。

口腔がんのできる場所



1. 舌がん 37.0%
2. 下顎歯肉がん 21.5%
3. 上顎歯肉がん 15.5%
4. 口腔底がん 8.8%
5. 頬粘膜がん 7.0%
6. その他 10.2%

金沢大学歯科口腔外科受診患者の部位別頻度

口腔がんの原因は？

たばこは口腔がんの最も危険因子とされています。喫煙者の発症率は非喫煙者の3倍以上になります。

お酒も口腔がんの危険因子とされています。特にたばことお酒を両方たしなむ人は、発症率がさらに高くなります。

歯・入れ歯など、口腔の状態も発癌に関連します。虫歯を放置したり、合わない入れ歯を使用して、慢性的な刺激が加わると、癌の原因になります。

歯や義歯が原因で出来たと思われる症例を供覧。

歯科と関連する口腔がんについて：まとめ

口腔外科臨床では歯や義歯に起因すると考えられる口腔がんに遭遇することがしばしばある。特に、機械的な慢性刺激や、口腔内の不潔などの慢性炎症が、口腔がんの発症に関わっているように思われる。

われわれ歯科医師が口腔内環境を整えることが、口腔がんの予防になるとともに、口腔内の異常を歯科医師が見つかることで、口腔粘膜疾患やその他の全身疾患を発見する手掛かりになることもある。歯科医師は歯や義歯など歯科疾患だけでなく、口腔領域のスペシャリストとしての役割も大きいと思われる。